

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

② 施設・事業所情報

名称：渋谷保育園	種別：児童分野 認可保育所	
代表者氏名：園長 小島 喜久枝	定員（利用人数）： 90（109）名	
所在地：〒242-0024 大和市福田6002		
TEL：046-267-1243	ホームページ： <a href="https://kotobukikai.ed.jp/nursery/shibuya/">https://kotobukikai.ed.jp/nursery/shibuya/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2009年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人寿会		
職員数	常勤職員：22名	非常勤職員：11名
専門職員	保育士：21名	看護師：1名
	栄養士：1名	調理員：3名
	子育て支援員：2名	用務員：1名
施設・設備の概要	（居室数）：6室	（設備等）調理室、事務室、職員休憩室など

③理念・基本方針

理念：人と自然に接し 人を愛し 自然を愛し 自分から遊べる自主性  
とられることのない 自由な心をもつ おおきな子に

保育目標：

- ・夢や遊び心を持って自然に伸び伸びと生活できるように
- ・いろいろな仲間と暮らす中で、仲間を理解し自分も理解するように
- ・小さいクラスから大きいクラスまで一緒に暮らす中で、小さい子は大きい子を見て育ち、大きい子は小さい子をかわいがる関係を大切に
- ・子どもを真ん中にして、保護者も保育者も保育園の生活を共に楽しんでいけるように
- ・地域の子ども、お年寄りなど、いろいろな人たちが気軽に集まれる保育園に
- ・子どもの笑顔が素敵な保育園に

④施設・事業所の特徴的な取組

渋谷保育園は引地川沿いにあり、川沿いの遊歩道を始め沢山の公園が10か所以上もあり子どもたちの散歩には最適な立地条件を備えています。園庭は広く、運動会は保護者と一緒に楽しむことができます。中庭には夏の間プールが出来るようになっており、夏以外は、青空レストランという呼び名で給食を食べるなどして使っています。小さいクラスからは裸足で外気に触れられるようになっています。渋谷保育園の園舎は平屋建てになっており、子どもの移動が楽にでき、職員間の交流もやりやすいです。

渋谷保育園の保育の大きな2つの柱は

- ・お外でいっぱい遊ぶ

・小さい子と大きい子が一緒に遊ぶ  
そうした中で、心も体も大きく育つと考えています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月14日（契約日） ～ 2023年1月24日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（2016年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

【特長】

◆子どもたちは外遊びを思いっきり楽しみ、その子らしく園生活をのびのびと過ごしています

園は、「外遊び」と「異年齢交流」を保育の大きな2つの柱としています。2歳児以上の子どもたちは、園庭で朝の自由遊びの後に朝の会を合同で行い、5歳児が前にでて体操をしたり、子どもが好きなダンスを踊ったりしています。保育士は、子どもの様子を近くで見守り、参加したくない子どもや他のことに興味がある子どもに寄り添っています。晴れていれば毎日、子どもたちは、園庭で遊んだり、近隣の散歩に出かけています。園の周囲には、川沿いの散歩道を始め、自然豊かな公園が複数あり、子どもたちは季節ごとの自然を楽しみ、思いっきり身体を動かしています。朝夕の合同保育のほか、異年齢で園庭で巧技台遊びや鬼ごっこをしたり、散歩に出かけたりして交流しています。異年齢で一緒に遊ぶ中で、子どもたちはお互いの違いを認め合い、様々な学びを得ています。運動会ではクラスの中で踊ってきたダンスや日頃から楽しんできた巧技台遊びを中心にしたプログラムにするなど、特別な練習を重ねるのではなく日ごろの活動を発表し、子どもが無理なく自分らしさを発揮できるようにしています。このような取り組みを通して、子どもたちはその子らしさを言葉や身体で表現し、園生活を友だちと一緒にのびのびと楽しんでいます。

◆保育士は、園内研修で目指す保育の姿について話し合い、連携して保育しています  
保育理念・基本方針を園内に掲示するとともに、職員会議や園内研修等で、保育理念が日々の保育の内容とどのように結びつくか具体的な事例をあげて話し合っています。今年度は「多様性を認める保育」を掲げ、昨年度末の園内研修で「多様性」をテーマにグループワークをし、「どんな子どもでも楽しめる遊び」「入っていかない（離れていく）子どもがいる遊び」の特徴などを出し合い、保育環境や子どもを見る視点、支援の方法などを検討しました。このような取組を通し、保育士は目指す保育の姿を共有し、個々の子どもの気持ちを大切に保育にあたっています。保育士は、朝と昼の打ち合わせや職員会議等で子どもの姿について密に情報共有し、それぞれの子どもが自分らしく園生活を送れるように保育しています。

◆地域の福祉施設として地域の子育て支援に積極的に取り組んでいます

保育目標に「地域の子ども、お年寄りなど、いろいろな人たちが気軽に集まれる保育園に」と掲げ、地域との関係づくりに力を入れています。地域の自治会に加入し、職員が地域のお祭りに参加したり、園の行事の時に自治会役員が交通整理をしたりし、関係を築いています。また、市や子育て支援センター、主任児童委員などが参加する地域子育て連絡会に参加し、見守りなど地域の課題解決に向けて連携しています。地域子育て支援事業も積極的に展開していて、毎日の園庭開放、月1回のあそぼう会、育児講座「アイアイ」、育児相談、緊急一時保育などを実施しています。民生委員と協力し、地域育てサロンに保育士を年8回派遣するなど、地域の関係機関と連携し、

積極的に地域の子育て支援に取り組んでいます。

【今後期待される点】

◆職員間での話し合いを深め、保育実践の統一性を図っていくことが期待されます  
園は、子どもと職員が自分の個性や良さを発揮し、園生活をともに楽しめることを大切にしています。クラス運営はクラス担任に任されていて、保育士と子どもの個性が生かされたプログラムとなっています。運動遊びやダンス、音楽、読み聞かせなど、職員それぞれの特技や個性を発揮する機会も多くあり、職員間でお互いの良さを認め合う風土ができています。ただし、保育観察時において、子どもへの関わり方や安全面での配慮などで、クラス間、職員間で差異があり、統一性に欠ける場面も見られました。職員間で話し合いを深めて、園としての基本的な方法やルールを定めて共有し、保育実践に反映していくことが期待されます。

◆マニュアルを常に見直し、園が蓄えてきたノウハウを文書として残していくことが期待されます

園は、職員心得や子ども・保護者との関わり方、衛生管理などのマニュアルを作成し、ガイドラインの変更時など、必要に応じて随時見直しをしています。ただし、マニュアルによっては改正日の記載がなく、最新版かどうか確認ができない状況です。また、見直しが不十分なものや文書化されていない取組も見られます。現在は園での経験が長い職員が多いこともあり、業務の中で不都合があった時にはその都度職員間で話し合い柔軟に対応していますが、職員の交代などに備え、園が今まで積み上げて来たノウハウをマニュアルに反映し、常に最新のものとしていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の第三者評価は、今までの内容と大きく変わったと感じています。これまでは横浜方式を選び受審してきました。

私たちの事業所がなぜ第三者評価を受けようと思ったのかといえば、受審を通して職員と自らの保育を振り返る良い機会となっていたからです。園長として職員に中々言いづらいことなども項目を一つ一つ検証しながら考えることができたと思っていました。

今の評価のあり方は、話し合う内容がはっきり言えば面白くなくなっていました。時代の要請が変わったといえばそうなのかもしれませんが、残念です。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり